

会報
第24号
2017年5月



一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田
会報
発行人/理事長 馬場信雄
〒475-0836 半田市青山5-2-14
TEL/FAX:0569-24-4324
http://www.akarenga-handa.jp
E-mail:redbrickhanda@yahoo.co.jp

NEWS目次

<ul style="list-style-type: none"> ■ 01 新春合宿 ■ 02 蔵のまち雛祭り ■ 03 加富登麦酒名古屋支店オープン <p>特別寄稿 赤煉瓦ネットワーク2017 敦賀大会予告</p>	<p>今後の事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 平成28年度 定時総会 ② カプトビールフェスティバル ③ 半田運河CANAL NIGHT ④ 20周年記念行事 ⑤ 赤煉瓦ネットワーク敦賀大会
---	---

NEWS 01
新春合宿

2月18日(土)、成岩公民館にて新春合宿が開催されました。ご来賓の笠井半田市市民経済部長、松見半田市観光協会事務局長、指定管理者の宮道半田赤レンガ建物館長よりご祝辞をいただきました。館長より、開館以来50万人に迫る来場者数があったとの報告がありました。第1部では、4月～12月の事業報告があり、続いて29年度の



事業計画案について、各委員長より説明がありました。特記事項として、本年が倶楽部創立20周年記念の年で事業計画案の中に記念事業の企画が入れられたことです。意見交換に入り、会員よりもっと倶楽部員が参加活動しやすい企画を希望したいとの意見がありました。執行部から、活発な活動をするために運営委員会を設置しているので、会員の皆さんはぜひ希望する部会に入って活動をしていただきたいとの要望がありました。運営委

員会は、調査研究、企画、広報、事務局と4つの部会から成り立っています。今後の倶楽部活動を全員で盛り上げて行きましょう。第2部は、お楽しみの懇親会です。自由な意見交換と司会者の楽しいトークであっという間に時間が過ぎました。今年は5年に一度開催される半田山車祭りの年、どんな企画ができるか楽しみです。(小林記)

NEWS 02
蔵のまち雛祭り

2月25・26、3月4・5の4日間に、「やさ



しい光に包まれたガラスアートのお雛様」と題し、暗い部屋にス

テンドグラスとガラスのお雛様のやさしく煌びやかな光とゆめホタル・陶器ランプのLED電飾の幻想的な光を融合し、多くの来場者を魅了し



ました。また、家族連れの方々に雛祭りを楽しんでいただくため、花ふところ餅作り、レンガ積み木体験、カブトビール関連グッズ販売コーナーなどの特設、幅広い年齢層の方々に半田赤レンガ建物の楽しい雛祭りを満喫していただきました。(平岡記)



NEWS 03 加富登麦酒名古屋支店オープン

(カブトビール)

3月27日(月)名古屋市納屋橋のたもとに生カブトビールが飲めるカフェTWILO(トワイロ)がオープンしました。お店の入口には「加富



登麦酒名古屋支店」の看板が掲げられています……。えっ！納屋橋に名古屋支店？門

外不出の「生カブトビール」がなぜ納屋橋に？……。

実は納屋橋とのつながりは3年前に遡ります。納屋橋地区活性化に取り組んでいる市民団体代



表の高山さんからカブトビールを販売させてほしいとの電話がありましたが、赤レンガ建物以外では小売販売しない方針の為、即刻お断りをしました。しかし、その後高山さんから一通の手紙が送



高山さん(一番右側)

られてきました。折

角送られてきたため一度は目を通さないと失礼だと思い読むことにしました。しかし、読み進むほどに、目がどんどん手紙に吸

い付けられていくのです。文の最後には「私たちレトロ納屋橋まちづくりの会の活動理念は“大切なものを次代につなげたい”であり、カブトビールを通じて何十年もの間潜んでいた歴史を来場者の皆様と共に紐解いてみたいというのが私たちの最大の想いです。もし、仮にカブトビールの販売のご承諾を頂けることになった暁には、私たち一丸となって【赤煉瓦倶楽部半田】様の活動理念である“赤レンガ建物の重要性と活用の可能性”を来場者の皆様へ積極的にPRすることをお約束させていただきます。」で結ばれていました。

読み終えた後、まだ会ってもいないのに、まさに熱い想いを持った者同志が意気投合したかのような感覚になりました。そして、翌日カブトビール販売許可の電話をしました。

それ以来納屋橋との深い深い交流が始まったのです。このたび高山さんから、納屋橋まちづくりの拠点として、半田赤レンガ建物の名古屋における



広報拠点としてカフェを開店したい、そして、門外不出の「生カブトビール」の販売を許可してほしいとの要請がありました。ビールにつ



いてはアサヒも麒麟もなく、カブトビールのみを販売したいというのです。これほどの熱い気持ちで開店するカフェは、必ず半田赤レンガ建物への誘客に大きな力になると判断し許可することにしました。しかし、条件として「加富登麦酒名古屋支店」の看板を掲げることを要請したところ、半田赤レンガ建物への想いを形に表す上でもぜひ掲げさせてほしいとの返答で今回実現したという訳です。名古屋地区の広報拠点として、半田赤レンガ建物への誘客に大きな力になると思います。皆さんもぜひ一度、足を運んでください。(馬場記)

【特別寄稿】 赤煉瓦ネットワーク 2017敦賀大会 (11月4日～5日) への誘い

特定非営利活動法人THAP
監事 河原 継男

赤煉瓦倶楽部半田の皆様、昨年は大変お世話になりました。素晴らしい大会でした。そして、お疲れ様でした。

2012年の敦賀大会開催の時、事務局長として皆様をお迎えしたNPO法人THAPの河原と申します。この度、僅か5年で2度目の開催となり



2015年リニューアルされた「赤レンガ倉庫」

ます。今回は赤レンガ倉庫を活用するためにどうしたらよいか。歴史的建造物と市民活動の関わりについて、半田さんを始めネットワーク会員の先進地の方々の活動報告や敦賀のまちづくりへの提案等をお聞きしたことを大会の報告書として敦賀



耐震工事を終え、銀行当時の様相を取り戻した「敦賀市立博物館」

市へ提出。活用されることを一日千秋の思いで待ちわびていました。

その後、幸いにして赤レンガ倉庫の改修工事が決定、半田赤レンガ建物のオープンと同年 2015



国登録有形文化財に登録された「旧北陸線トンネル群」

年10月14日にリニューアルオープンしました。

今回は、前回皆さんに見ていただき、改修なった「赤レンガ倉庫」、同じく耐震工事を終えた「市立博物館」、それに加え、昨年国の登録有形文化財になった「旧北陸本線のトンネル群」を見ていただきたく、腕によりをかけて趣向を考えています。皆様にご満足いただけるような企画も検討中であり、是非楽しみにしていただき、大勢のご参加をお待ちしています。

敦賀は古くからの歴史があり、大陸との交易が盛んに行われていた。外国からやってきた賓客をもてなす、今でいう迎賓館である「松原客館」が設置されていた。

また、奈良時代、都の警備上置かれた古代三関の一つである「愛発関(あらかのせき)」があった。これは、いつの時代においても天然の良港である敦賀が海路・陸路の物流・人流の重要な結節点であったことが分る。

図らずも、御地半田市と敦賀市は本年市制 80周年を迎えます。これはまさに千歳一遇、これを機に両市の連携を深めるきっかけにしたい。また、蛇足ではあるが、中日新聞の半田支局長、都築修氏は敦賀支局長から3月1日付けで異動になったとのこと。これもまた奇遇、何かの縁(えにし)を感じざるをえません。

2023年には北陸新幹線が敦賀までやってくる。今後50年先、100年先のまちづくりを創る、今がそのチャンス。否、ラストチャンスかもしれない。今回の大会では、閉塞感漂うこの敦賀を変えるために、原発依存から脱却できるまちづくり、鉄道と港のまちづくりを、何をどうして、どう創っていくべきか。ネットワーク会員の皆様の知恵とお力をお借りしたいと思っています。

■ 定 款 (抄)

【法人の名称】

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田

【目 的】

当法人は、貴重な旧カフトビール工場の半田赤レンガ建物及び旺盛な起業家精神を顕彰するとともに、後世に引き継ぎ、それを活かしたまちづくりに関する事業を行うとともに、赤煉瓦に関係するネットワークと連携し、赤煉瓦を活かしたまちづくりを支援する活動を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

【会 費】

- (1) 入会金 1,000 円
- (2) 年会費
 - ① 個人会員 2,000 円
 - ② 法人・団体会員 10,000 円
(団体は 10 名以上)
 - ③ ボランティア会員 無料

【活動年度】

毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

総会は、毎年 1 回開催する

【運 営】

当会の運営は理事会で行う。運営にあたり次の役員を置く。

- (1) 理事 5 人以上
- (2) 監事 1 人以上

理事のうち、一人を理事長、2人を副理事長とする。

【事業年度】

毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの年 1 期とする。

■ 編集後記

平成 28 年度 (H28.4～H29.3) も無事決算を終えることができました。決算結果については 6 月 17 日の定時総会にて報告させていただきます。直近 1 年間の来場者数は 50 万人弱と極めて順調に推移しています。この状態を今後維持したいと思っています。一方、倶楽部定款の目的事項「赤レンガ建物並びに旺盛な起業家精神を後世に引き継ぐ・・・」に関して平成 28 年度においてどれくらい実施できたのか。昨年開催した特別展、赤煉瓦探検隊を始め成果があった反面、単なるイベントに終始してしまっている事業もあり、新年度には原点に立ち返り新たな挑戦が必要であると思っています。

(事務局)

【1】平成 28 年度定時総会

(H28.4～H29.3)

■日時:平成 29 年 6 月 17 日(土)

■場所:半田赤レンガ建物クラブハウスD、カフェ

■日程:16:30～ 総会

18:00～ 懇親会

ドイツ料理も出ます。

ご予約をお願いします。

【2】カフトビールフェスティバル

■日時:平成 29 年 7 月 15 日(土)～17 日(月)

■場所:半田赤レンガ建物

■内容:生カフトビールを中心に各種企画

【3】半田運河 CANAL NIGHT

■日時:平成 29 年 8 月 18 日(金)・19 日(土)

■時間:未定(夕刻～夜)

■場所:半田運河

【4】20 周年記念行事

■日時:平成 29 年 9 月 9 日(土)

■場所:半田赤レンガ建物クラブハウスD、カフェ

■日程:第一部 記念式典

第二部 記念講演

講師:早稲田大学 教授

佐々木 葉氏(予定)

第三部 記念祝賀会

【5】赤煉瓦ネットワーク敦賀大会

■日時:平成 29 年 11 月 4 日(土)・5 日(日)

※詳細案内は、9 月初旬頃の予定